

なぜダウ1000がターゲットなのか。

1. 狂乱: 1921年から1929年の間の強気の株市場を狂乱期と例えるなら、1929年以降のバブル経済を扱った著者たちも、その間が狂乱の時期であったと認めるでしょう。そして1982年から2000年の間も同様に、狂乱期またはバブル期であったといえます。1921年から1929年のバブルの時に比べて、2.5倍も物価が上昇したのです。物価はバブル経済のすぐ後の弱気市場において、バブル最初の値よりさらに下回り、1929年から1932年の弱気市場では、1921年の強気市場での最初の値より35%も下がったのです。1982年8月のダウ平均最初の値は777でしたが、それを35%下回る値を今現在の弱気市場で考えると、ダウ平均は急落し500となる事になります。

2. サイズ: 大きければ大きいほど、落ちるときはひどく落ちるのです。1982年から2000年の間の強気市場は非常に大きく、1921年から1929年の間の強気市場より2.5倍の規模でした。強気市場での景気がよければよいほど、弱気市場に入ったときの打撃が強いのです。55%の物価の下落だけではすまないという訳です。「値上がりに比例して、物価が下がっていく。」- W.D.ガン氏より。「極端に言うと、どの状態にいても結局は反対の状態になる。」- エピタスの引用より。

3. コンドラティエフの冬の周期、弱気市場: ちょうどこの前の秋の強気市場が、私達の人生最大の強気市場であったのと同様に、この冬の弱気市場は私達の人生最大の弱気市場なのです。1929年から1932年の冬の弱気市場では、ダウジョーンズ式平均株価が89.2%も下落したのですが、それを現在の株式市場に当てはめるとダウジョーンズ式平均株価は1266ポイントまで下がる事になります。恐らく現代で最も重要であろうダウトランスポーテーション指数グラフでは、その1929年から1932年の冬の弱気市場で93%のポイント低下が見られ、それを同様に現在に当てはめると、ダウジョーンズ式平均株価は820ポイントまで下がる事になるのです。

4. 支持と抵抗: 1966年から1982年の間にダウ1000は12回も打撃を受け、1982年12月、秋の強気市場の到来まで一度も回復しなかったという事は、今期の冬の弱気市場の株価に重要な役割を担っていることを裏づけています。

5. 価値: 利益と配当金が下がり、冬の不況が進むにつれ更に下落することが予想されます。すでにさまざまな株が低迷しているようです。ある測定方法によると、株式価格が現在より90%低下するであろうと推測されており、利益と配当金も弱気市場の影響でさらにもっと下落するでしょう。そして両方とも今までに見た、弱気市場よりも更に悪い結果という事になります。

6. エリオット・ウェーブ経済見通し: 私はエリオット・ウェーブを2つ購読しています。1つはロバート・プレッチャーのエリオット・ウェーブ・インターナショナル (www.elliottwave.com)、もう1つはロバート・マックヒューのメイン・ライン・インベスターズ (www.technicalindicatorindex.com) です。両方とも独立した理論ですが、両方がこの弱気市場を大変動と呼んでいます。プレッチャーは最近の経済見通しで、ダウが弱気市場の底に達し、400以下まで下がると予測しています。よって彼の予測よりもダウ1000の方が、好ましいことがわかります。マックヒューは具体的な数字を出してはいませんが、物価の低迷が続くことを予想していて、それを大変動と呼んでいます。「株価の動きを予測するにあたって、3つの基本的な構成要素がある。売買高、情勢 (マックディー (MACD) (移動平均収束拡散法) にて計測)、物価の上昇に対してその下落、の3つである。これは我々が使っているエリオット・ウェーブの論理に当てはまり、非常に大きな物価低落が今すぐにもやってくると予測される。」- 2009年11月13日の記事より

7. 経済: 58兆ドルの負債除去を処理しなければならぬが故に、今経済は恐ろしいデフレの大不況に追い込まれていくのです。株価にもこの現実が反映されていくでしょう。

8. 金融市場は自然の周期に左右されている: 金融市場の周期を人工的に変えることはできないのです。時には実力ある者たちが、この自然の周期に手を加えようと試みるのですが、結果は過剰な自信と錯覚に押しつぶされてしまうのです。

以上のことから、私はダウ1000がいかに信頼できる指数であるか述べてきましたが、皆様にも今一度よく考えていただき、そしてもしダウ1000が的外れな指数であると思われるなら、その理由を教えてください。だが、「今回の不況は質が異なる」や「米国政府はよくわかった上で行動している」などという理由は却下させていただきます。

我々はコンドラティエフ周期を研究し、多くの負債を蓄積した冬の不況を予測し、ダウ1000の指数を導きました。これらの予測は決して楽しいものではなく、予測が現実となった時には多くの人々が経済的に破滅に追い込まれ、人々の家庭、健康に大きな被害がでるでしょう。財産を失い、生活できなくなる者たちは、憤慨することでしょう。我々はこういったことが起こってほしくはないが、起こってしまうのではないかと不安なのです。今までコンドラティエフ周期を研究し、得た知識をもとに予測してきたことは、全体的中しました。先行きは暗いようです。続きはこちらのサイトをご覧ください。www.longwavegroup.com